

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年12月10日

協議会名: 森町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
森町	<p>運行系統:濁川線①(高校通学便)</p> <p>運行区間:濁川地区～森市街地</p> <p>運行回数:121.5回</p> <p>運賃:地域外での移動300円 地域内での移動100円</p>		A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A <p>【利用者数】 (目標) (実績) 1,400人/年以上&lt;1,633人</p> <p>【運行収入・支出等】 (目標) (実績) 濁川線 300,000円/年以上&lt; 392,900円 森町の支出(全系統合計) 10,000,000円/年以内&gt; 9,010,867円</p> <p>【収支率】 (目標) (実績) 5.0%/年以上&lt;6.58%</p>	<p>・都市機能が市街地に集積している特性を踏まえ、郊外と主要施設を結ぶ役割だけでなく、市街地内の周遊性向上についても継続的な検討と見直しが必要。</p> <p>・生活交通手段を維持・確保し、地域住民の日常生活の移動確保や地域間幹線系統との接続による広域的な移動を図るため今後も本路線は必要であるが人口減による利用見込も踏まえて今後の運行形態やダイヤの検討おこなっていく。</p>
森町	<p>運行系統:濁川線②</p> <p>運行区間:濁川地区～森市街地</p> <p>運行回数:139.5回</p> <p>運賃:地域外での移動300円 地域内での移動100円</p>		A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A <p>利用者数については、当初の対象者層に加え、運行チラシの発行による認知度も向上したことで、目標を達成した。支出については、人件費等の増額があったものの目標値以内の金額となった。交通空白地域への情報提供を徹底し、地域交通の役割を果たせた。</p>	

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年12月10日

協議会名: 森町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
森町	運行系統:駒ヶ岳赤井川線 運行区間:赤井川地区～駒ヶ岳地区～森市街地 運行回数:198回 運賃:地域外での移動300円 地域内での移動100円		A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A <b>【利用者数】</b> (目標) (実績) 1,200人/年以上<1,573人 <b>【運行収入・支出等】</b> (目標) (実績) 駒ヶ岳赤井川線 250,000円/年以上< 336,900円 森町の支出(全系統合計) 10,000,000円/年以内> 9,010,867円 <b>【収支率】</b> (目標) (実績) 5.0%/年以上<10.11%  利用者数については、濁川線と同様に認知度が上がったことにより目標数値を達成した。支出については、人件費の増額等があったものの目標値以内の金額となった。濁川線と同様に地域交通の役割を果たせた	

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年12月10日

協議会名:	森町地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>森町は、幹線系統として鉄道と一般バス路線が運行しているものの、地域によっては、これら公共交通を利用するには自宅から移動距離が長く、交通空白地域が散見されている。また、令和5年4月に函館バス株が運行する濁川線が廃止となり、濁川地区においては森町市街地までの移動手段だけでなく、JR駅までの移動手段がなくなったため、地区住民の生活維持に向けては、町内交通の拡充が重要である。</p> <p>そのため、住民の生活の足の確保に向け、森町市街地内を周遊し定期的に利用できるモビリティの確保と生活圏自治体である函館市までの重要な移動手段である鉄道や一般バス路線の利用者数の確保に向け、これら幹線系統との連動性を高めたきめ細やかなバス町内交通を充実させることを目標に地域内フィーダー系統の構築を進めているものである。</p>

# 森町地域公共交通会議における地域公共交通確保維持改善事業の概要

## 事業実施の目的・必要性

森町は、幹線系統として鉄道と一般バス路線が運行しているものの、地域によっては、これら公共交通を利用するには自宅から移動距離が長く、交通空白地域が散見されている。また、令和5年4月に函館バス(株)が運行する濁川線が廃止となり、濁川地区においては森町市街地までの移動手段だけでなく、JR駅までの移動手段がなくなったため、地区住民の生活維持に向けては、町内交通の拡充が重要である。

そのため、住民の生活の足の確保に向け、森町市街地内を周遊し定期的に利用できるモビリティの確保と生活圏自治体である函館市までの重要な移動手段である鉄道や一般バス路線の利用者数の確保に向け、これら幹線系統との連動性を高めたきめ細やかなバス町内交通を充実させることを目標に地域内フィーダー系統の構築を進めているものである。

## 地域公共交通の現況

- ・ JR函館本線（本線）（森駅、赤井川駅、駒ヶ岳駅、石倉駅）
- ・ JR函館本線（支線）（渡島沼尻駅、渡島砂原駅、掛洞駅、尾白内駅、東森駅）
- ・ 函館バス(株)（町内1路線）
- ・ スクールバス（2路線）
- ・ タクシー（2社）

## 生活交通確保維持改善計画の目標

### 【利用者数】

- ・ 濁川線：1,400人/年以上
- ・ 駒ヶ岳赤井川線：1,200人/年以上

### 【運行収入・支出等】

- ・ 濁川線：300,000円/年以上
- ・ 駒ヶ岳赤井川線：250,000円/年以上
- ・ 森町の支出：10,000,000円/年以内

### 【収支率】

- ・ 濁川線：5.0%/年以上
- ・ 駒ヶ岳赤井川線：5.0%/年以上

## 協議会開催状況

- 令和7年1月9日 第4回会議(書面)を開催  
主な協議事項 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について
- 令和7年2月17日 第5回会議を開催  
主な協議事項 今後の運営形態について
- 令和7年6月18日 第1回会議を開催  
主な協議事項 森町公共交通計画認定申請及び計画の変更について

## 令和7年度事業概要

### ○運行系統：濁川線①(高校通学便)

運行区間：濁川地区～森市街地 運行回数：121.5回  
運賃：地域外での移動300円、地域内での移動100円

### ○運行系統：濁川線②

運行区間：濁川地区～森市街地 運行回数：139.5回 運賃：地域外での移動300円、地域内での移動100円

### ○運行系統：駒ヶ岳赤井川線

運行区間：赤井川地区～駒ヶ岳地区～森市街地 運行回数：198回 運賃：地域外での移動300円、地域内での移動100円

# 令和7年度事業の実施状況

## 1) プロセス、創意工夫

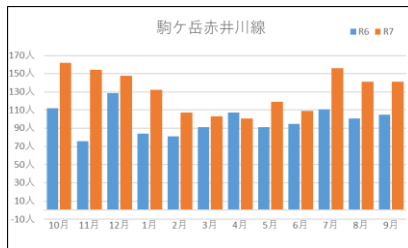
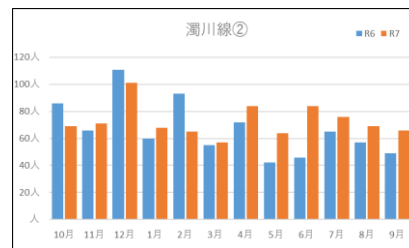
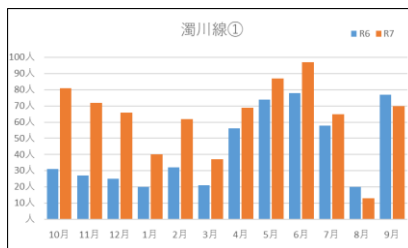
- ・地域との意見交換や聞き取りで得た意見を基に、令和7年4月1日より駒ヶ岳・赤井川線ルートを通る東森町在住の方々の利便性に合わせたルートを見直しました。
- ・住民の皆さまからの要望に基づき、令和7年4月1日から濁川線ルートに富士見町停留所を新設しました。

## 2) 運行系統



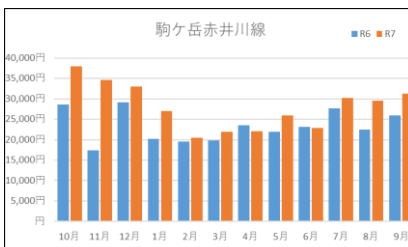
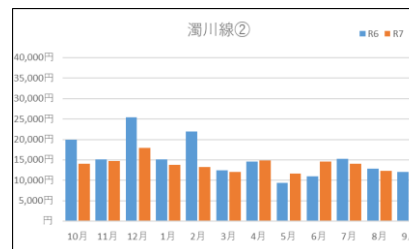
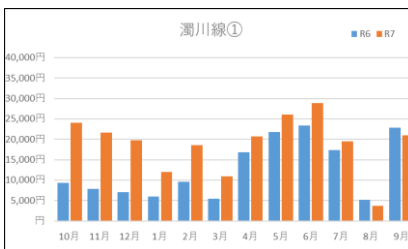
### 3) 利用実績

	R5.10～R6.9利用実績			R6.10～R7.9利用実績		
	濁川線①	濁川線②	駒ヶ岳赤井川線	濁川線①	濁川線②	駒ヶ岳赤井川線
10月	31人	86人	112人	81人	69人	162人
11月	27人	66人	76人	72人	71人	154人
12月	25人	111人	129人	66人	101人	148人
1月	20人	60人	84人	40人	68人	132人
2月	32人	93人	81人	62人	65人	107人
3月	21人	55人	91人	37人	57人	103人
4月	56人	72人	107人	69人	84人	101人
5月	74人	42人	91人	87人	64人	119人
6月	78人	46人	95人	97人	84人	109人
7月	58人	65人	111人	65人	76人	156人
8月	20人	57人	101人	13人	69人	141人
9月	77人	49人	105人	70人	66人	141人
計	519人	802人	1,183人	759人	874人	1,573人



### 4) 収入実績

	R5.10～R6.9収入実績			R6.10～R7.9収入実績		
	濁川線①	濁川線②	駒ヶ岳赤井川線	濁川線①	濁川線②	駒ヶ岳赤井川線
10月	9,300円	20,000円	28,600円	24,100円	14,100円	38,000円
11月	7,900円	15,200円	17,400円	21,600円	14,700円	34,600円
12月	7,100円	25,500円	29,100円	19,800円	17,900円	33,000円
1月	6,000円	15,200円	20,200円	12,000円	13,800円	27,000円
2月	9,600円	21,900円	19,500円	18,600円	13,300円	20,500円
3月	5,500円	12,500円	19,800円	10,900円	12,100円	21,900円
4月	16,800円	14,600円	23,500円	20,700円	14,800円	22,100円
5月	21,800円	9,400円	21,900円	26,100円	11,600円	25,900円
6月	23,400円	11,000円	23,100円	28,900円	14,600円	22,900円
7月	17,400円	15,300円	27,700円	19,500円	14,000円	30,200円
8月	5,200円	12,900円	22,500円	3,700円	12,300円	29,500円
9月	22,900円	12,100円	25,900円	21,000円	12,800円	31,300円
計	152,900円	185,600円	279,200円	226,900円	166,000円	336,900円



## 5) 事業実施の適切性

計画に登載のとおり各路線を運行・継続することができ、それにより地域住民の移動が確保され、外出促進等につながった。

## 6) 目標・効果達成状況

・濁川線①・②の利用者については、当初の対象者層に加え、運行チラシの発行による認知度も向上したことで、目標値1,400人に対し実績値1,633人と目標数値を達成している。また、ルートの改善などの実施で高校生など一定区間の利用者を取り込むなど交通空白地域の地域交通の役割をしっかりと果たせた。

・駒ヶ岳赤井川線についても目標値1,200人に対し実績値1,573人と目標数値を達成している。利用者数については、濁川線と同様に認知度が上がったことにより目標数値を達成するとともに地域交通の役割を果たせた。

・運行収入・支出等については、濁川線が目標300,000円に対し実績392,900円、駒ヶ岳赤井川線が目標250,000円に対し実績336,900円と目標を上回り、森町の支出については、人件費の増額等があったものの目標10,000,000円/年以内に対し、実績9,010,867円と目標値以内の金額となった。

・収支率については、濁川線は目標値5%に対し、実績値6.58%、駒ヶ岳赤井川線は目標値5%に対し、実績値10.11%とそれぞれ目標を上回ることができた。

## 7) 事業の今後の改善点

・都市機能が市街地に集積している特性を踏まえ、郊外と主要施設を結ぶ役割だけでなく、市街地内の周遊性向上についても継続的な検討と見直しが必要。

・一部バス停の位置がわかりづらいことからバス停を設置。

・生活交通手段を維持・確保し、地域住民の日常生活の移動確保や地域間幹線系統との接続による広域的な移動を図るため今後も本路線は必要であるが、人口減による利用見込も踏まえて今後の運行形態やダイヤの検討おこなっていく。

## 8) 地方運輸局等における二次評価結果(案)

運輸局記載欄